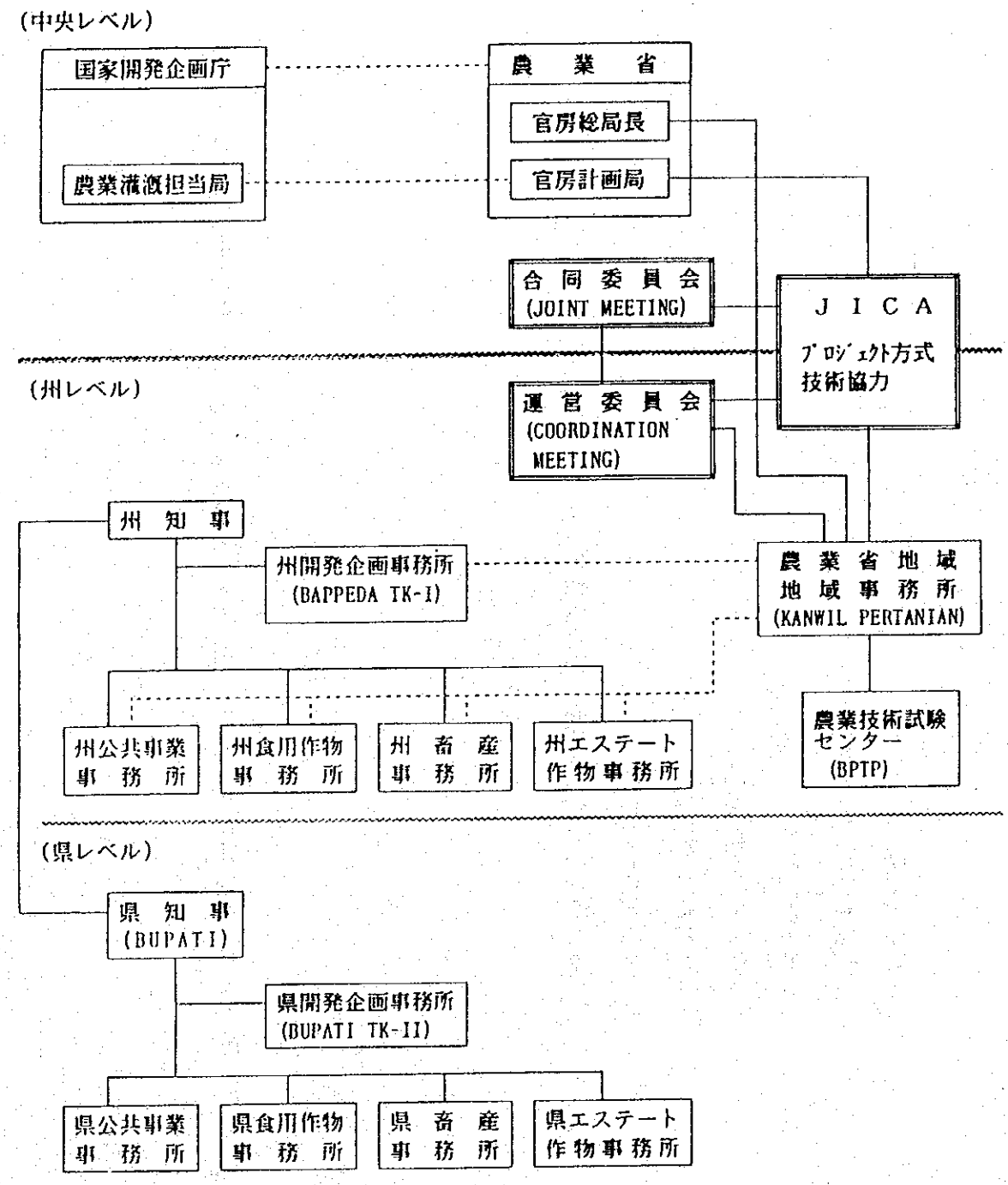
2　実施機関組織図

プロジェクト実行組織図



3　プロジェクト作成の協力活動目標達成表および協力活動一覧表（和文）

	ページ
1．農業農村開発計画部門	119
2．農業農村基盤整備部門	124
3．施工管理部門	127
4．機械操作維持管理部門	136
5．営農指導部門	140
6．農民組織強化部門	144
7．政府等関係職員、中核農民及び農民グループ研修	152

協力活動目標達成表

（農業農村開発計画部門）

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
Ⅰ.農業・農村総合開発計画			
1.土地利用及び営農計画 (1)土地利用計画 1)土地利用の調査	1.プロジェクト対象８村において農業・農村総合開発計画を策定する。 1)・農業・農村総合開発計画を策定する上で必要な各対象村の土地利用、水利、道路等の現状調査を行い、改善すべき技術上の問題点を把握する。 ・土地利用の調査方法、収集すべき資料の種別等をＣ／Ｐに指導し理解させる。	1)・土地利用現況調査に必要な地形図の入手完了。（５万分の１及び２５万分の１の地形図） ・州土地局、統計事務所、郡や村役場で土地利用現況に関する資料収集、可能な範囲の現地調査を実施 ・対象８村について完了。	1)山林、湿地帯、広大なアランアラン草地の境界の確認調査は出来ない。 （達成度：８０％）
2)土地利用計画	2)対象８村の開発のための土地利用計画を策定するとともにＣ／Ｐにその手法手順等の指導し理解させる。	2)・土地利用調査、地形図、資料等を基に対象村毎の土地利用計画を作成。 ・上記計画を基にプロジェクト協力サイトを地元関係者と協議し地形測量実施範囲を決定（対象８村完了） ・農業省官房計画局主催のセミナーにて、「イ」国内２７州の農業省開発計画担当者に対し本プロジェクトの開発計画策定手法の紹介を実施。 ・州土地局にて対象８村の土地利用、土地所有及び土地利用計画図が作成された。（縮尺：７０００～１５、０００分の１）。 ・中堅技術者養成対策事業の開発計画セミナーにて州開発計画担当者に策定手順、事例紹介。	2)・「イ」側主体による開発計画策定の確立を目指す。 ・開発計画策定手法に関するマニュアルの作成（整理中）。 ・プロジェクト進捗に基ずき土地利用計画図の改訂を土地局や、Ｃ／Ｐと実施中、現ＲＤ終了時までには協力６村についての改訂は完了予定。 ・遊休地の土地利用については土地所有調査、確認が不可欠。 （達成度：７０％）

協力活動目標達成表

（農業農村開発計画部門）

（2／3）

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
(2)営農計画 1) 営農技術の実態調査	1)各対象村の営農技術等の実態を調査しこれら技術水準、形態等を解析し改善すべき適正技術上の問題点を把握する。 C／Pにこれら調査手法の技術移転をし理解させる。	1)・データー収集及び調査 気象資料の収集を実施。各プロジェクトサイトでは観測施設がなく、クンダリ空港や州公共事業事務所のデーターを収集。 収集データーは雨量、温湿度、気圧、風力で日射量データーは観測機器がなく入手出来ず。 ・土壌資料は州土地局で入手。 ・適正技術確立に必要な営農技術の実態調査は対象村毎に既耕地、開発可能面積等を聞き取り又営農形態、技術術水準等は見聞により調査 ・展示圃場の場所、面積等の概定	(2)詳細は営農分野協力目標達成表参照。 （達成度：８０％）
2)営農計画	2)C／Pに地域に普及すべき適正な栽培、営農計画策定のための必要資料、手順、手法等を指導し理解させる。	2)・上記調査に基ずき指導項目、技術移転方法、供与機械の機種等をC／P、普及員と検討し方針を概定	
2.農業・農村基盤整備開発計画 (1)測量調査 1)現地測量	1)・事業実施地区の地形測量、河川測量、基準点測量等の現地測量を実施し、C／Pにこの手順等の技術指導を行いその技術を理解させる。 ・面積１、５００ｈａの測量実施。	1)・対象７ケ村実施済み（１ケ村は灌漑計画がないため実施せず）。 ・測量実施面積：１，０９０ha ・区画整理は実施しないため、一筆測量は実施せず	1)地形測量はコンサルが実施するため、C／Pは実務までは出来ないが手順等は一応理解した。（達成度：９０％）
2)地形図の作成	2)・プロジェクト実施サイトの開発計画、設計に必要な地形図を作成し、C／Pに計画、設計手順、手法を指導する。	2)・対象７村の地形図完了。 縮　尺　：５０００分の１、 等高線間隔：平坦部１.０ｍ、丘陵地５、０ｍ ・１村については、踏査により現況の概要図を作成 実務は地元コンサルが実施したため、C／Pに対しては現地測量、地形図作成上のチェックポイント、手法を指導。	2)地形図の作成はコンサルが実施するためC／Pは実務は出来ないが手法について一応理解した。 （達成度：９０％）

協力活動目標達成表

（農業農村開発計画部門）

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
(2)計画設計 1)農地造成の計画設計	1)C／Pに対し農地造成の開発計画策定、設計に必要な基礎的知識、技術の指導を行いその手法、技術を理解させる。	1)7村の計画、設計完了。 ・地形図を基に農地造成範囲を概定し面積を確定。 ・地元協議を実施し農地造成モデル区域を決定。 C／Pが計画に関する地元説明まで出来るようになった。	1)1村の農地造成計画は現在関係機関地元と協議中。近日中に確定。 （達成度：80%）
2)土地基盤の計画設計	2)C／Pに対し事業地区の用排水施設、農道等の配置計画、設計に関する技術指導を行いその手法、技術を理解させる。	2)・7村の計画、設計完了。 ・地形図を基に上記農地造成区域に係わる灌漑、排水施設、農道及び付帯構造物の配置計画を策定し地元説明、同意を得て確定、又実施中の要望にも対応し変更しつつ進めている。 ・将来、農民による維持管理を考慮した簡易構造物も紹介し、また既存施設の補修等によりコスト減をを図るよう検討し実施。	2)C／Pが配置計画の策定及び地元説明は出来るまでになったが、構造物の簡易化、コスト軽減等は経験がなく又他機関との調整もあり、自立には日数を要する。 （達成度：70%）
3)農業用施設の計画設計	3)C／Pに対し農村開発、農業生産に必要な農業用施設の計画、設計技術の指導を行いその手法、技術を理解させる。	3)既存施設を調査し、適正規模、構造を計画設計し、配置計画についても地元協議を実施し決定している。C／Pが規模構造及び配置計画の決定まで一応出来るようになった。 4)主要な協力内容の概定（別紙） 5)成果： ・現在、当地域の公共事業は政府実施機関で策定された計画設計に基ずき事業が実施されており、事前は勿論、実施中でも地元説明、意向斟酌は殆どなく当プロジェクトの手法は農民の評価をえている。 ・施設の建設用地の調整はすべて「イ」側で調整。 ・普及員専用事務所の建設は事例がなく、見学者から評価をえている。 ・共同井戸の敷設は生活環境改善、婦女子の労力軽減等の見地から高い評価をえている。	3)同上

協力項目の概要

（別紙）

実施計画内容			概要／内容									達成目標／成果
大項目	中項目	小項目	（農業・農村基盤整備計画）									
			（郡名）	ティナンガ		バランガ		レイニア	ランドノ	ラノメト		
			（市名）	ラロバオ	ラブル	バランガ	キアニア	ラニア	サブラニア	ラノメト	オホウィラ	合計
農業・農村基盤整備	1．土地基盤整備	1）農地造成	水田 (ha)	25	30	20	20	—	30	25	20	170
			畑地等 (ha)	10	10	10	10	20	—	—	—	60
		2）土地基盤整備	取水路 (ヵ所)	1	2	1	2	—	2	2	1	11
			用水路 (m)	1,500	4,000	1,300	4,000	—	5,500	2,500	4,000	24,300
			排水路 (m)	—	—	—	—	—	—	1,500	4,000	5,500
			道路 (m)	2,600	3,000	1,700	2,000	6,200	5,000	3,900	2,000	25,300
	2．農業・農村開発計画		家畜市場 (ヵ所)	—	—	—	—	1	—	1	—	2
			肥育展示場 (ヵ所)	—	1	1	—	1	1	1	—	5
			種子貯蔵施設 (ヵ所)	—	1	1	—	1	1	1	—	5
			精米施設 (ヵ所)	1	1	1	1	1	1	1	1	8
			乾燥施設 (ヵ所)	5	5	5	5	5	5	5	5	40
			研修施設 (ヵ所)	1	2	2	1	2	2	2	1	13
			共同井戸施設 (ヵ所)	5	5	5	5	5	5	5	5	40
			・8村において、各開発タイプの土地基盤整備及び農業・農村施設整備工事を実施する。 なお、ブルドーザー等の供与機材の操作指導等を政府職員及び農民に実施する。					・機械開墾の施工法の指導 ・農地造成施工管理手法の指導 ・開墾機械の操作機材管理技術の指導 ・工事実施の指導 ・施工管理技術の指導				

インドネシア南東スラウェシ州農業農村総合開発計画・協力活動実績一覧表

（農業農村開発計画部門）

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次）	平成4年度（2年次）	平成5年度（3年次）	平成6年度（4年次）	平成7年度（5年次）
		AMJJASONDJFM	AMJJASONDJFM	A MJJASONDJFM	AMJJASONDJFM	AMJJASONDJFM
	専門家在任状況 C／Pの配置	< 菅野専門家				
		<	6名（フルタイム2名	パート4名） >	< 3名（パート3名）	
1、農業農村総合開発計画						
1、土地利用及び営農計画	1、土地利用及び営農計画					
（1）土地利用計画	（1）土地利用計画					
1）土地利用の調査	1）土地利用の調査					
2）土地利用計画	2）土地利用計画					
（2）営農計画	（2）営農計画					
1）営農技術の実態調査	1）営農技術の実態調査					
2）営農計画	2）営農計画					
2、農業・農村基盤整備開発計画	2、農業・農村基盤整備計画					
（1）測量調査	（1）測量調査					
1）現地測量	1）現地測量					
2）地形図の作成	2）地形図の作成	ラノメト、パランガ	キアエア、ラロバオ、ラブル	サブラコア、	オネウイラ	
（2）計画	（2）計画					
1）農地造成の計画	1）農地造成の計画					
2）土地基盤の計画	2）土地基盤の計画					
3）農業用施設の計画	3）農業用施設の計画					

協力活動目標達成表

（農業農村基盤整備部門）

（1／2）

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
Ⅰ．農業農村総合開発計画 2.農業・農村基盤整備開発計画 (2)計画設計 1)農地造成の計画、設計	1)農地造成の設計 ①C／Pが重機械による農用地造成の基礎的な知識及び開発に必要な設計の技術を修得する。 ②機械開墾 C／Pが機械開墾の手順、積算方法を理解する。	1)農地造成の、設計 ①7村の、設計完了 ②当プロジェクトでは農用地造成、土地基盤整備、農業用施設整備の全てについて計画設計時点で、専門家、C／Pで地元説明協議を行い地元の意向も取り入れた計画に基ずく設計の指導、理解さす。 ③機械開墾の設計、積算方法の指導中。 ④本プロジェクトは農民をプロジェクト実施にも参加させることから、労災保険加入の手続きを指導、理解させ実施。	1)農地造成の、設計 ①残る1村は公共事業所、地元と協議中で近々完了。 ②ブルドーザ、バックホー等による設計、積算の手順は一応理解出来たが重機械による農地造成は、初めての経験で、しかもC／Pが農業省の職員もおり、傾斜、土質、運土距離等から現地条件に適した係数、運転時間の積算等はまだ不十分である、今後他の公共事業でもこの経験、知識を基に実施されるよう指導する。一方当プロジクトは機械が、供与機械であることから、損料の積算しかしないが今後公共事業では損料の積算も不可欠であることから、これ等の積算方法も指導しているか理解させるにはまだ多少の日数を要する。 達成度　80％
2)土地基盤施設の計画、設計	2)土地基盤施設の設計 C／Pが灌漑施設、橋梁、付帯構造物の設計、積算方法を理解し、C／P自身で設計図書のチエックが可能となると同時に設計変更の処理方法を理解する。	2)土地基盤施設の設計 ①公共事業所から配属のC／Pは設計積算は有る程度対応出来るようになつた。 ②地形条件の変化、地元の要望等により、数量の増減が生じる場合の変更方法が理解出来た。	2)土地基盤施設の設計 ①農業省から配属のC／Pについては専門外であり、まだ指導を要す。当プロジクトで建設してきた施設の構造、規格をモデルにし今後他の公共事業にも反映した計画実施ができる。　達成度　70％ ②土地基盤施設、農業用施設に共通して言えることは、数量等の再チエックがまだ不十分でありチエックポイントの指導を要する。 達成度　70％

協力活動目標達成表

（農業農村基盤整備部門）

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
3)農業用施設の計画、設計	3)農業用施設の設計 ①C／Pが農業用施設の設計図書の作成、積算方法を理解し、C／P自身で設計、積算が可能となる。 ②C／Pが土地基盤施設、農業用施設の入札執行仕様書の作成までの図書作成が出来るようになる。 ③C／Pが土地基盤施設、農業用施設の実施工程表の作成、管理が出来るようになる。	3)農業用施設の、設計 ①C／Pにより小規模の農業用施設の設計図作成積算、工程管理、検査等について可能となった。 ②C／Pにより土地基盤施設、農業用施設の入札執行仕様書の作成までの図書作成が可能となった。 ③C／Pにより実施工程表の作成、管理方法、請負業者から提出書類のチエック方法が可能となる。	3)農業用施設の、設計 複雑な工種の技術仕様書についてはまだ不十分、今後指導し理解させる。 達成度　６０％
	4)設計図書の作成及び整理 ①測量設計図書 ②土地基盤施設の設計図書 ③農業用施設の設計図書 ④水管理研修の図書 以上の設計図書の作成、整理方法の指導、理解をさす。	4)設計図書の作成及び整理 C／Pが設計図書の作成及び整理ができるようになった。	4)設計図書の作成及び整理 達成済み。
	(5)水管理研修 関係する政府関係職員、農民グループの代表者等を対象にして実施、現在５村完了し、計画の実施についてC／P自身で計画出来るよう指導し理解する。	5)水管理研修 ①水管理研修は５村完了 ②上記、５村内４村ではＰ３Ａ（水管理組合）が設立、現在運営している。設立の必要成、運営方法等の調整はC／P自身で対応出来るまでになつた。	5)水管理研修 残る３村の内１村は研修完了し現在Ｐ３Ａの設立準備中、残る２村は７年度中に研修を実施し設立予定。

インドネシア南東スラウェシ州農業農村総合開発計画・協力活動実績一覧

（農業農村基盤整備部門）

（1／1）

ＴＳＩの項目	活動内容	平成3年度（1年次）	平成4年度（2年次）	平成5年度（3年次）	平成6年度（4年次）	平成7年度（5年次）
		A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F				
	季節→	雨期 乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期
	専門家在任状況→	松中専門家		高岡専門家		
	C／P在任状況→	RAHMAN, GARAHAMA		R, BUDI, RAHARDJO		
		SUYADI				
					ALMAILI	
Ⅰ．農業・農村総合開発計画						
2.農業・農村基盤整備開発計画						
(2)計画設計	(2)設計					
1)農地造成の計画設計	1)農地造成の設計					
	①ラノメト村	[----]				
	②バランガ村		[-----]			
	③キアエア村			[----]		
	④ラブル村				[-----]	
	⑤ラロバオ村				[-----]	
	⑥ラエア村					[-----]
	⑦サブラコア村					[----]
	⑧オネウイラ村					
2)土地基盤の計画設計	2)土地基盤の設計					
	①ラノメト村	[----]				
	②バランガ村		[-----]			
	③キアエア村			[-----]		
	④ラブル村				[----]	
	⑤ラロバオ村				[----]	
	⑥ラエア村				[-----]	
	⑦サブラコア村					[-----]
	⑧オネウイラ村					[---]
3)農業用施設の計画設計	3)農業用施設の設計					
	①ラノメト村		[-----]			
	②バランガ村、キアエア村 ラロバオ村			[-----]		
	③ラロバオ村，ラブル村 ラエア村				[----]	
	④サブラコア村，オネウイラ村 ラブル村				[-----]	

協力目標達成表

（施工管理部門）

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
II．農業・農村基盤整備 1.土地基盤整備 (1)農地造成 1)機械開墾	① C/Pに機械開墾のための、現況調査、実施計画作成、施工法、出来形測量の手法が理解される。	①従前地の所有者、面積、耕区数を把握し区画割り計画作成指導。 ②造成工法、手順、使用機種の選定等を指導。 ③各村から選出され、訓練を受けた重機オペレーターによる農地造成工事を通じて施工法の指導。 ④測量技術の基礎的知識の技術移転の成果品としてインドネシア語による測量技術入門書の作成。	1),2)共通 ・供与機械の導入が遅れたことにより、その期間だけ重機による機械開墾の施工期間が延びた。 ・平成 8年度の乾期で、予定している全ての土地基盤整備が完了し、C/Pに対する技術移転が達成できる。
2)施工管理	② C/Pに施工管理の必要性、目的を説明し施工管理手法が理解される。	①工程管理 ・横線式工程表（バーチャート）の作成指導。 ②品質管理（出来形管理） ┌ 直接測定の出来形管理 │ ：水田均平作業で ±5cm以内の管理を目標に指導。 │ ：畑地の耕起・砕土作業で耕起深15cm以上の目標で管理指導。 └ 撮影記録による出来形管理 ：施工前の撮影指導。 ：各造成ステージ毎の撮影指導。 ③施工管理の基礎的知識の技術移転の成果品としてインドネシア語によるマニアルの作成。	

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
		達成度： 60% 根　拠： 対象8村のうち6村において土地基盤整備が実施され、C/Pに技術移転された。	
(2)土地基盤施設 1)工事実施／2)施工管理	①直営工事 ・C/Pに、工事実施のための場所の選定、実施計画の作成、施工法施工管理手法が理解される。	①農道整備、堰堤整備、道路横断暗渠、農道橋架設、用水路掘削の工事を実施し指導。 ②コンクリート管、井戸枠製作の技術移転の成果品としてビデオの作成。 ③農民グループ工事（用水路掘削、ため池造成、農道橋架設、用水路小構造物）を各村で実施、これらの施工技術の指導。 ④工事に必要な簡易工具（コンクリート練り鉄板掛矢、タコ等）の試作及び活用指導。 ⑤農民自身が造ったため池の法面保護に、そだ柵工、ブンサイの植栽指導。	1).2)共通 ・平成 8年度の乾期で、予定している全ての土地基盤施設が完了し、 C/Pに対する技術移転が達成できる。 ・農民による直営工事は、簡易構造物が多いので、現地産の材料（丸太、そだ材、石材、自作コンクリート管等）を多用した工事施工法を C/P、農民グループリーダー等に指導しているが、経験の積み重ねがより必要である。残された村・期間で指導を継続していく。
	②請負工事 ・取水堰等灌漑施設工事の施工管理手法を C/Pに対して行い理解される。	①対象村全てにおいて、取水施設、分水工。、落差工等の灌漑施設を実施し、施工管理手法を指導。 ②施工管理の基礎的知識の技術移転の成果品として、インドネシア語によるマニアル作成。 達成度： 60% 根　拠： 対象8村のうち7村において土地基盤整備が実施され、C/Pに技術移転された。	・地元大手請負業者は、公共事業の施工実績も豊富で問題はないが、工程・施工管理はまだ不十分なところもあり、 C/P同様業者の現場責任者にも、管理手法を指導し、移転目標の達成を図る。 ・ 2村については現在基盤整備工事実施中で、現 R/D期間内での完了は困難。

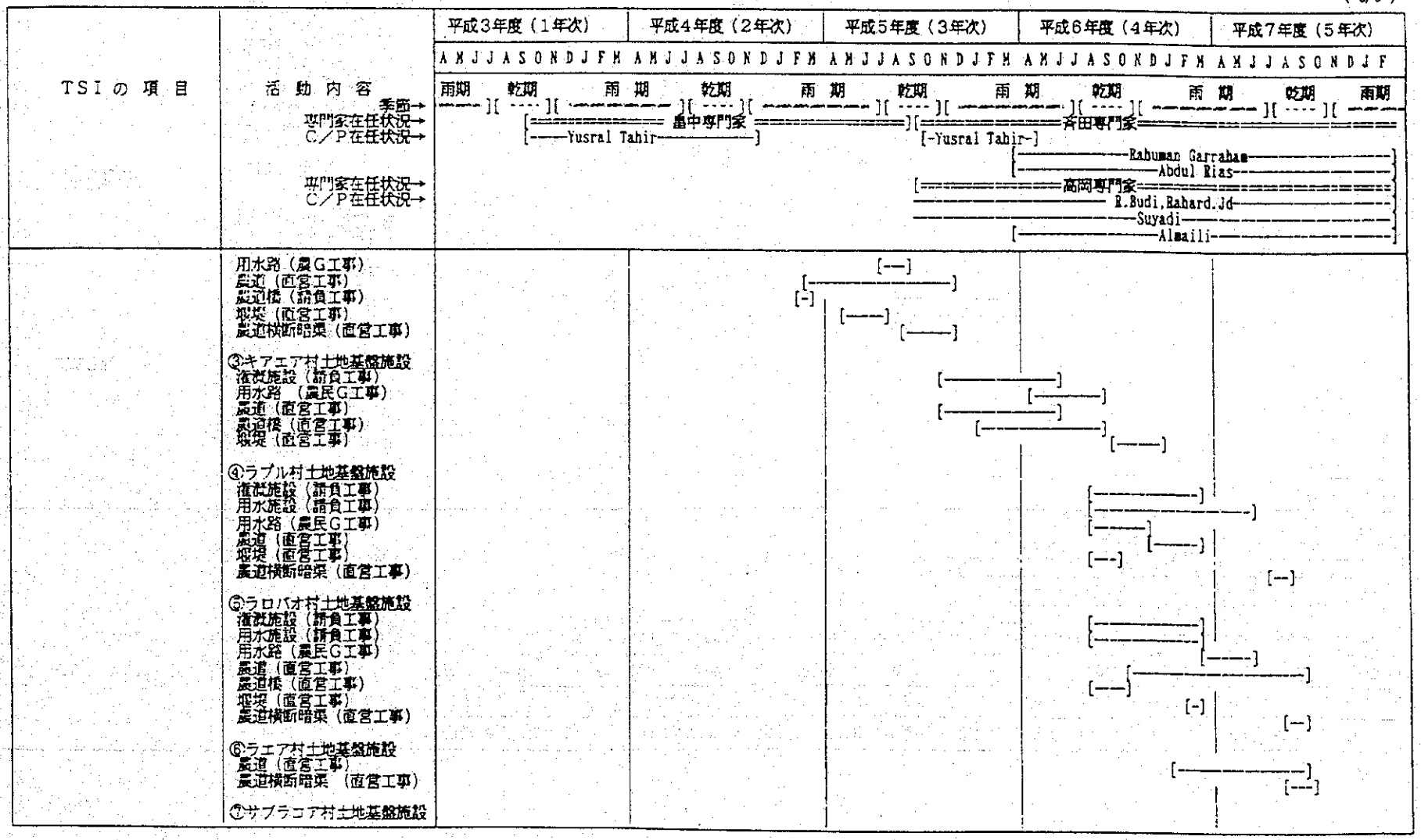
協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
			・協力期間内に C/Pが 2人交替し、配属された C/Pは農業省職員で専門分野外で、基礎知識も実地経験もなく、技術指導が必要である。
1.農業・農村施設整備			
(1)工事実施／(2)施工管理	①直営工事 ・共同井戸設置を農民グループ工事により実施し、 C/Pに施工法、施工管理手法を理解される。 ②請負工事 ・農業・農村施設整備を通じて、施工管理の手法を C/Pに対し理解される。	①／②共通 ・対象村8村全てにおいて実施され、施工管理手法を指導。	①／②共通 ・達成済み
		達成度： 70% 根　拠： 対象村全てにおいて完了した。	・協力期間内に C/Pが 2人交替し、配属された C/Pは農業省職員で専門分野外で、基礎知識も実地経験もなく、技術指導が必要である。

インドネシア南東スラウェシ州農業農村総合開発計画・協力活動実績一覧

（施工計画部門）

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次）	平成4年度（2年次）	平成5年度（3年次）	平成6年度（4年次）	平成7年度（5年次）
		A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F
	季節→	雨期 乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期
	専門家在任状況→	畠中専門家			斉田専門家	
	C／P在任状況→	Yusral Tahir		Yusral Tahir		
	専門家在任状況→				Rahuman Garraham Abdul Rias 高岡専門家	
	C／P在任状況→				R.Budi,Rahard.Jd Suyadi Almaili	
II．農業・農村基盤整備 1．土地基盤整備 (1)農地造成 1）機械開墾	1）機械開墾 ①ラノメト村機械開墾 水田造成（直営工事） 畑地造成（直営工事） エステート（直営工事） ②バランガ村 機械開墾 水田造成（直営工事） 畑地造成（直営工事） エステート（直営工事） ③キアエア村機械開墾 畑地造成（直営工事） エステート（直営工事） ④ラブル村機械開墾 水田造成（直営工事） ⑤ラロバオ村機械開墾 水田造成（直営工事） ⑥ラエア村機械開墾 畑地造成（直営工事） エステート（直営工事） ⑦サブラコア村機械開墾 水田造成（直営工事）			機械施工短期専門家		

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次）	平成4年度（2年次）	平成5年度（3年次）	平成6年度（4年次）	平成7年度（5年次）
		A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F
	季節→	雨期 乾期	雨 期 乾期	雨 期 乾期	雨 期 乾期	雨 期 乾期 雨期
	専門家在任状況→	畠中専門家			斉田専門家	
	C／P在任状況→	Yusral Tahir			Yusral Tahir Rahuman Garraham Abdul Rias	
	専門家在任状況→			高岡専門家		
	C／P在任状況→			R.Budi,Rahard.Jd Suyadi	Almaili	
2)施工管理	畑地造成（直営工事） エステート（直営工事） ⑧オネウィラ村機械開墾 水田造成（直営工事） 畑地造成（直営工事） エステート（直営工事） 2)施工管理 ①ラノメト村機械開墾 ②バランガ村機械開墾 ③キアエア村機械開墾 ④ラブル村機械開墾 ⑤ラロバオ村機械開墾 ⑥ラエア村機械開墾 ⑦サブラコア村機械開墾 ⑧オネウィラ村機械開墾					
(2)土地基盤施設 1)工事実施	1)工事実施 ①ラノメト村土地基盤施設 灌漑施設（請負工事） 用水施設（請負工事） 用水路（農G工事） アクセス農道（請負工事） 農道（直営工事） 農道橋（請負工事） 煙堤（直営工事） 農道横断暗渠（直営工事） ②バランガ村土地基盤施設 灌漑施設（請負工事） 用水施設（請負工事）					


TSIの項目
活動内容
平成3年度（1年次）
平成4年度（2年次）
平成5年度（3年次）
平成6年度（4年次）
平成7年度（5年次）
A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F
雨期 乾期 雨期 乾期 雨期 乾期 雨期 乾期 雨期 乾期 雨期
季節→
専門家在任状況→
C／P在任状況→
畠中専門家
Yusral Tahir
斉田専門家
Yusral Tahir
Rahuman Garraham
Abdul Rias
専門家在任状況→
C／P在任状況→
高岡専門家
R.Budi,Rahard.Jd
Suyadi
Almaili
用水路（農G工事）
農道（直営工事）
農道橋（請負工事）
堰堤（直営工事）
農道横断暗渠（直営工事）
③キアエア村土地基盤施設
灌漑施設（請負工事）
用水路（農民G工事）
農道（直営工事）
農道橋（直営工事）
堰堤（直営工事）
④ラブル村土地基盤施設
灌漑施設（請負工事）
用水施設（請負工事）
用水路（農民G工事）
農道（直営工事）
堰堤（直営工事）
農道横断暗渠（直営工事）
⑤ラロバオ村土地基盤施設
灌漑施設（請負工事）
用水施設（請負工事）
用水路（農民G工事）
農道（直営工事）
農道橋（直営工事）
堰堤（直営工事）
農道横断暗渠（直営工事）
⑥ラエア村土地基盤施設
農道（直営工事）
農道横断暗渠（直営工事）
⑦サブラコア村土地基盤施設

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次）	平成4年度（2年次）	平成5年度（3年次）	平成6年度（4年次）	平成7年度（5年次）
		A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F
	季節→	雨期 乾期	雨期 乾期	雨期 乾期	雨期 乾期	雨期 乾期 雨期
	専門家在任状況→	畠中専門家		斉田専門家		
	C／P在任状況→	Yusral Tahir		Yusral Tahir	Rahuman Garraham Abdul Rias	
	専門家在任状況→			高岡専門家		
	C／P在任状況→			R.Budi,Rahard.Jd	Suyadi Almaili	
2)施工管理	灌漑施設（請負工事） 用水路（農民G工事） 農道（直営工事） 農道橋（直営工事） 堰堤（請負工事） 農道横断暗渠（直営工事） ⑧オネウィラ村土地基盤施設 灌漑施設（請負工事） 用水路（農民G工事） 農道（直営工事） 農道橋（直営工事） 堰堤（請負工事） 農道横断暗渠（直営工事） 2)施工管理 ①ラノメト村土地基盤施設 ②バランガ村土地基盤施設 ③キアエア村土地基盤施設 ④ラブル村土地基盤施設 ⑤ラロバオ村土地基盤施設 ⑥ラエア村土地基盤施設 ⑦サブラコア村土地基盤施設 ⑧オネウィラ村土地基盤施設					
2. 農業・農村施設整備 (1) 工事実施	(1) 工事実施 ①ラノメト村農業農村施設 種子貯蔵庫（請負工事） 研修施設（請負工事） 共同井戸設置（農G工事） 精米施設（請負工事） 乾燥施設（請負工事）					

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次）	平成4年度（2年次）	平成5年度（3年次）	平成6年度（4年次）	平成7年度（5年次）
		A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F M	A M J J A S O N D J F
	季節→	雨期 乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期
	専門家在任状況→	畠中専門家			斉田専門家	
	C／P在任状況→	Yusral Tahir		Yusral Tahir		
	専門家在任状況→				Rahuman Garraham Abdul Rias 高岡専門家	
	C／P在任状況→				R.Budi,Rahard.Jd Suyadi Almaili	
	肥育展示場（請負工事） 家畜市場（請負工事） 家畜市場周辺整備（請負）					
	②バランガ村農業農村施設 研修施設（請負工事） 共同井戸設置（農G工事） 肥育展示場（請負工事） 精米施設（請負工事） 乾燥施設（請負工事）					
	③キアエア村農業農村施設 種子貯蔵庫（直営工事） 共同井戸設置（農G工事） 研修施設（請負工事） 精米施設（請負工事） 乾燥施設（請負工事）					
	④ラブル村農業農村施設 共同井戸設置（農G工事） 研修施設（請負工事） 精米施設（請負工事） 乾燥施設（請負工事）					
	⑤ラロバオ村農業農村施設 種子貯蔵庫（直営工事） 共同井戸設置（農G工事） 研修施設（請負工事） 精米施設（請負工事） 乾燥施設（請負工事）					
	⑥ラエア村農業農村施設 共同井戸設置（農G工事） 研修施設（請負工事） 肥育展示場（請負工事）					

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次）	平成4年度（2年次）	平成5年度（3年次）	平成6年度（4年次）	平成7年度（5年次）
		A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F				
	季節→	雨期 乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期
	専門家在任状況→	畠中専門家		斉田専門家		
	C／P在任状況→	Yusral Tahir		Yusral Tahir	Rahuman Garraham Abdul Rias	
	専門家在任状況→			高岡専門家		
	C／P在任状況→				R.Budi,Rahard.Jd Suyadi Almaili	
(2) 施工管理	家畜市場（請負工事）					
	⑦サブラコア村農業農村施設 共同井戸設置（農G工事） 研修施設（請負工事） 精米施設（請負工事） 乾燥施設（請負工事） 肥育展示場（請負工事）					
	⑧オネウィラ村農業農村施設 共同井戸設置（農G工事） 研修施設（請負工事）					
	(2) 施工管理					
	①ラノメト村農業農村施設 ②バランガ村農業農村施設 ③キアエア村農業農村施設 ④ラブル村農業農村施設 ⑤ラロバオ村農業農村施設 ⑥ラエア村農業農村施設 ⑦サブラコア村農業農村施設 ⑧オネウィラ村農業農村施設					

協力目標達成表

(機械運転操作維持管理部門)

(1/3)

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・延長の理由
II、農業農村基盤整備 1、土地基盤整備 (1) 農地造成 1) 機械の操作維持管理	1) 機械の操作維持管理		
	(1) 工程操作の指導を通し重機オペレターの育成農地造成工。	(1) 本プロジェクトは農民参加型プロジェクトであることから4名の農民の若者を重機オペレターとして選抜し工程通りの作業が出来るようになり、他事業でも対応が出来るようになった。	(1) 2村が未施工でまだ1村が工事中である。又1村が軟弱地で今年度中の完成は困難が予想される。 当3村での農地造成を通し特に軟弱地の農地造成技術移転を行い完了させる。 達成度：70%
	(2) C／Pが各種農地造成工工程を理解する。	(2) C／Pが各種農地造成工の概念を概ね修得した(c／pへの運転操作は技術移転の対象としない。) 農地造成工工程は別紙	(2) 同上 達成度：60%
	(3) C／P、オペレターが重機の維持管理技術を修得する。	(3) C／p、オペレーが日常維持管理が出来るよになつた。	(3) 複雑な箇所(エンジン、ミッション、ステアリング、等)の修理は高度な専門技術、エンジンの分解等が必要である為期間内での技術移転は困難である。 (複雑な箇所の修理はメーカーに依頼する方向で対処する。 達成度：60
	2) 農業機械操作・整備		
	(1) C／Pが農業機械(各村営農機材)の操作技術を修得し、各村の農民へその技術を移転する。	(1) C／Pが全機種の運転操作技術を修得し選抜された農民をオペレターとして育成する事が可能となつた。	(1) 各村に営農機材を供与しているが、供与されたばかりの村では、オペレターの操作技術未熟であることから今後重点的な技術強化が必要である。 (ラロバオ、サブラコア、オネウイラ、各村) 達成度：60%
	(2) C／Pが農業機材(各村営農機材)の整備技術を修得し、各村の農民へその技術を移転する。	(2) C／Pが全機種の整備技術を修得し選抜された農民をメカニックとして育成することが可能と成つた。	(2) 各村が機材維持管理が出来る体制の強化が残されている、クンダリ市より遠く離れた村は機械整備工場も皆無であり、修理、部品の調達には非常に困難である、それらに携わる人々の資質、知識、技能も他村より格段に不足、指導には多くの時間が必要と成ってくる。各村により民族、農業体系などが異なり特に農機操作整備等は初めての経験で技術指導には時間が必要である。 達成度：60%

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・延長の理由
		（備考）各村の整備、運転士の員数	

村　名	整備　士		運転　士	
	当初	現在	当初	現在
ラノメート	1名	2名	2名	6名
キアエア	1名	3名	2名	5名
バランガ	1名	3名	2名	5名
ラロバオ	1名	3名	2名	3名
ラブール	1名	2名	2名	4名
ラエア	1名	2名	2名	2名
サブラコア	1名	3名	2名	3名
オネウイラ	1名	3名	2名	3名
計	8名	21名	16名	31名

	3）農業機械の操作維持管理に係わるマニアルの作成、農民への指導書として作成する。	（1）マニアル作成 ① ガソリンエンジン構造 ② 〃 分解、組立 ③ 〃 取扱い ④ゼェゼルエンジン構造 ⑤ 〃 分解、組立 ⑥ 〃 取扱い ⑦ 〃 ガス、溶接取扱い ⑨ 各測定器具の取扱い	

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・延長の理由
	4）各機器材の試作 各分野の活動に必要な機器材を製作する。	（1）、 試作品の製作 ① 移動工作車 ② 移動式ソーラー乾燥器 ③ 井戸枠、暗渠管製作用型枠２種類 ④ メイズ脱粒器 ⑤ 薫製器 ⑥ 押し切り器 ⑦ 砕米脱離器 ⑧ ピストン挿入工具 ⑨ 足踏み脱穀器機	

（別紙）、農地造成工程

畑地造成　（表土を扱う場合）

（人力）抜開 → （人力）火入れ → （バックホウ、ブルトザー）抜根 → （ブルトザー）排根 → （ブルトザー）表土集積 → （ブルトザー）基盤造成 → （ブルトザー）表土戻し → （ブラオ）耕起 → （デスクハロー）砕土（2回）

畑地造成（山成工）

（人力）抜開 → （人力）火入れ→ （バックホー、ブルトザー）抜根 → （ブルトザー）排根 → （ブルトザー）不陸整正 → （ブラオ）耕起 → （デスクハロー）砕土

水田造成　『　』は表土を扱う時

（人力）抜開 → （人力）火入れ → （バックホー、ブルトザー）抜根 → （ブルトザー）排根 → （ブルトザー）『表土集積』 → （ブルトザー）基盤造成 → （ブルトザー）『表土戻し』→ （ブルトザー）整地

インドネシア南東スラウェシ州農業農村総合開発計画・協力活動実績一覧表

（機械操作維持管理部門）　農業基盤工事用機材

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次）	平成4年度（2年次）	平成5年度（3年次）	平成6年度（4年次）	平成7年度（5年次）
		AMJJASONDJFM	AMJJASONDJFM	A MJJASONDJFM	AMJJASONDJFM	A MJJASONDJFM
	専門家在任状況	< ――	――	―― 玉熊専門家 ――	―― >< ――	―― 加茂専門家 ――
	c／pの配置	< ―― 1名	―― >< ―― 3	名 ―― >< ――	1名 ―― >< ――	3名 ――
II、農業農村基盤整備	1、　農地造成					
1、土地基盤整備	（1）農業基盤工事用機材			短期専門家 -----		
（1）、農地造成	ア、運転操作		――	――	――	
1）機械の操作維持管理	イ、維持管理		――	――	――	――
					短期専門家 ----------	
2）農業機械操作・整備	（2）営農用機材					
	ア、運転操作	――				
	イ、維持管理	――	――	――	――	――
	（3）各村営農用機材					
	ア、運転操作	ラノメイト村 ――	――	――	――	――
	イ、維持管理	〃 ――	――	――	――	――
		キアエア　村 ――	――	――	――	――
		〃		――	――	――
		バランガ　村			――	――
		〃		――	――	――
		ラロバオ　村		――	――	――
		〃			――	――
		ラブール　村			――	――
		〃			――	――
		ラエア　村			――	――
		〃			――	――
		サブラコア村			――	――
		〃				――
		オネウイラ村			――	――
		〃				――
	（4）車輌					
	ア、維持管理	――	――	――	――	――

（営農部）

協力活動目標達成表

（1／2）

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み／遅延の理由（達成率は現 R/D終了まで）
Ⅲ．栽培及び営農技術の展示 1、改良技術導入試験	Ⅲ．栽培及び営農技術の展示 1、改良技術導入試験 本項目では、稲（移植水稲、陸稲）、畑／水田裏作、エステート作物の好適栽培技術の導入／実証・確立をC/P と一心同体となって実施する事により、C/P への技術移転とモデル農村の生産向上を目指す。また、最終的には普及員の活動強化を図るための農業技術ハンドブックを作成する。 ［作　物］ 1. 稲（移植水稲／陸稲） 2. 畑／水田裏作 3. エステート作物	Ⅲ．栽培及び営農技術の展示 1、改良技術導入試験 本プロジェクト地域内（8 モデル村）の農業形態は、地形、土壌、民族等により異なる。また、農業技術レベルも、それぞれの民族により大きな差があることから、栽培技術／普及方法もおのずと異なってくる。本プロジェクトへの技術導入は、ウジュンパンダ地域農業試験場および政府奨励栽培技術書（ジャカルタ農業省）からであるが、当地は、ウジュンパンダン地区などと比べて土壌条件は非常に劣悪であるとともに農民の経済状態も貧しく、政府の奨励技術導入技術がそのまま普及できない状況にある。この事から、地形、土壌および民族などの条件に適合した低価／安全栽培技術の導入・開発と普及が不可欠である。 現在の重点実施項目は、『移植水稲栽培技術』『陸稲栽培技術』『畑／水田裏作物栽培技術』『エステート作物』および『PPL への技術・普及手法の指導助言』であり、これらを C/Pと一体となって実施することによりC/P への技術移転を実施中である。 『移植水稲』 モデル村地域に導入可能で増収効果の高い技術、即ち少ない肥料での増収技術の確立を目指してモデル8村でデモ／実証を実施中であり、改善点は、①苗代の改善、②栽植密度の改善、③窒素分施法の改善、④移植深度・一株苗本数などの技術を確立しつつある。　移植水稲は1994/95 年度雨期作より開始し、①②④の項目については一応の技術指針が得られたが、一回のみの実証では確実とは言えない。また、③の項目はいまだ手が付いていない状態である。他方、C/P への一連の実証試験手法、データーの分析／解析及び結果からの奨励技術の導き方についての指導は実施中であるが初経験であり、今後数回の指導・助言が不可欠である。 『陸稲』 本地域の原住民であるトラキ族の重要な作物であり、これを除外する事は協力上非常な片手落ちとなることから、本作物についても技術導入／実証を行う事が必要と認識し実施中である。 陸稲の重要技術は、①播種（播種密度、播種量、播種法）、②施肥量／施肥法（分施法／施用法）であり、②の項目（施肥量）について一回の実証を完了した段階である。 『畑／水田裏作』 本地域の主な畑／水田裏作は、落花生、トウモロコシおよび大豆を中心とした豆類である。本作物については、導入技術により技術書作成が完了済みであり、現在展示中である。 『エステート作物』 プロジェクトでは、カシューナッツを既に IARDPにより造成されたエステート圃場に植栽を完了し、現在管理中である。	Ⅲ．栽培及び営農技術の展示 1、改良技術導入試験 実証試験は1991年 4月～94年 5月迄IARDP ﾗﾝﾊﾟﾄ実証圃の水田では落水直播、畑ではﾄｳﾓﾛｺｼ・ﾀﾞｲｽの実証展示が実施された。しかし、当地域の稲の主栽培様式は『移植栽培』および『陸稲』である。当地の自然条件、農家水稲栽培技術レベル、また試験場での落水直播も未だ試験段階であり、現状での落水直播栽培導入はリスクが大きすぎる事から、1994年 5月以降これを中止し、『移植水稲』『陸稲』及び『畑作物』を重点的に取組む事とした。 以上の状況から、IARDP の移植水稲、陸稲に関する技術的蓄積は皆無であり、ﾓﾃﾞﾙ8村では土壌条件、地形、民族で各々農業形態が異なり、その条件に適合した技術内容、レベル、作目による指導／展示が不可欠である。 『移植水稲』 本項については、1994/95 年度の実証試験が最初であり、栽植密度および窒素量試験が一回完了した所で、多くの技術項目が課題として残されている。特に、酸性土壌と砂質土では窒素追肥法の改善が不可欠で、③の項目は栽植密度と共に最重要項目であり今後現地実証が必要である（達成度30-45%）。 『陸稲』 本項目についても技術的蓄積は皆無で、1994/95 年度雨期作での窒素量試験が完了したのみであり、多くの技術項目が課題として残され、早急な技術導入・実証が必要である。特に、窒素量・施肥法（施用法／分施法）、栽植密度および播種法が最重要項目である（達成度25-35%）。 『畑／水田裏作』 本項目の落花生、トウモロコシおよび大豆については実証、技術書の作成も完了し、現在啓蒙／普及中であるが、土壌に問題が多く、土壌及び技術レベルに適合した作物の決定が不可欠である（達成度 80%）。 『エステート作物』 既にカシューナッツをラノメト、バランガ、キアニアおよびラニヤに定植完了し、管理中である。しかし、未だ収穫には　っていない（達成度 70%）。

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み／遅延の理由（達成率は現 R/D終了まで）
2、営農技術の展示・普及 1) 水稲（移植） 2) 畑作／水田裏作（含む陸稲） 3) エステート作物	2、営農技術の展示・普及 (1) 91-94 年 5月までの展示・普及 於ラノメト IARDP実証／デモ圃場で直営方式による演示／実証により C/Pへの技術移転を図る。 (2) 94/95 年度乾期作の展示・普及 本年度乾期作から、 IARDP、普及員および農民が一体となって実証／展示を実施する "農民参加型" 活動とする。 デモを通じて C/Pには技術／技能、実証試験手法等、普及員には普及／展示実施と農民指導法、および農民には改善生産向上技術の指導／助言を実施し、合わせて IARDP から生産現場への技術伝達経路の確立も目指したものである。 (3) 94/95 年度雨期作の展示・普及 同　上 (4) 95/96 年度乾期作の展示・普及 同　上	2、営農技術の展示・普及 (1)~91-~94年 5月までの展示・普及 ラノメト村 IARDP実証／デモ圃場に於いて水稲落水直播法の実証、演示を雨期／乾期合わせて 5回実施済み。畑作圃場では、大豆・トウモロコシのデモ／実証を 2回実施済み。 (2)~94/95 年度乾期作の展示・普及 1994年 5月より実証／展示法を改善し、 IARDP、普及員および農民が三者一体となって実証／展示を実施し、C/P に対しては技術／技能、実証試験法、普及／啓蒙法の技術移転、普及員には C/Pによる技術／技能、普及／啓蒙法の指導助言、そして農民には実際的増収技術の普及／啓蒙を行う "農民参加型" 活動方式により実証／展示を実施した。 デモ実施箇所は、 5村、8ヶ所で落花生を中心に実施。本作期は乾期であり、落花生を中心とした展示を実施し、多くの周辺農民が非常な興味を示し、普及員の報告によると、次期乾期では作付け面積拡大が期待されるとの事であった。 他方、プロジェクトから生産現場（農家）までの技術伝達経路の構築も合わせて実施した。 (3)~94/95 年度雨期作の展示・普及 プロジェクト地域を大別し、移植水稲、陸稲、豆類等のデモ／実証を 8 村、15ヶ所で実施。 実証試験では 8実証圃場より有意差のある結果が得られた。普及員も技術／普及法について多少の向上が見られた。また、実証と一緒にデモを実施した事から、農民にも処理による生育の差を明確に展示でき、実証とデモを一緒にした展示は効果的であった。 (4) 95/96 年度乾期作の展示・普及（乾期作） 現在、実証／デモを組合わせた展示を 8村、24農家で実施中。	2、営農技術の展示・普及 (1)~91-94 年 5月までの展示・普及 ~94 年 5月、 3年間いた C/Pが配置換えになり、新 C/Pが着任した。前 C/Pには水稲落水直播を中心とした技術移転がなされた。 (2)~94/95 年度乾期作の展示・普及 当地域での営農・普及活動では普及員の役割は非常に大きく、また農民参加プロジェクトである事から、普及員にも同時に技術移転を実施した。しかし、普及員の技術レベル、普及手法は未熟であり、普及体制と合わせて一層の強化が重要である。C/P および普及員にとって展示活動は初めての経験であり多少の混乱が生じたが、今後 IARDPの指導・助言のもとに PPL および農民が一体と成った活動展開による好適栽培技術の確立／実証／普及が不可欠である（デモの達成度 40%）。 (3)~94/95 年度雨期作の展示・普及 普及員にとってデモ／実証試験は初めての経験であり、技術／普及手法の一層の指導／助言が不可欠である（デモの達成度 50%）。 (4) 95/96 年度乾期作の展示・普及 普及体制の強化も不可欠。

インドネシア国・南東スラヴェシ州農業農村総合開発計画・協力活動実績一覧

（営農部）

（1／2）

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次）	平成4年度（2年次）	平成5年度（3年次）	平成6年度（4年次）	平成7年度（5年次）
		A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A				
	季節→	乾期 [--------]	雨期 [//////////] 乾期 [-------]	雨期 [//////////] 乾期 [-------]	雨期 [//////////] 乾期 [-------]	雨期 [//////////] 乾期 [-------]
	専門家在任状況→	[==========高島専門家==========			==========]	[========== 難波専門家 ==========▼
	カウンターパート配置 →	[---Mr. Syamsul Rijal----------			----------]	R/D終了
					[-------Mr. Rustan Supendi----------	
						[-Mr. Supriyanto--
Ⅲ. 栽培及び営農技術の展示	Ⅲ. 栽培及び営農技術の展示					
	1. 改良技術導入試験					
	(1)モデル村地区の自然条件と栽培技術					
	1)気象条件	[----------cont.				
	2)土壌条件			[---]土壌短期専門家	[---]土壌収集	[---]土壌収集・分析中
	3)慣行営農体系と栽培技術				[----------cont.	
	「水稲」				[----------]	
	「陸稲」				[----------]	
	「畑作／水田裏作」				[-------]	
	「ニステート作物」				[----------cont.	
	4)収量レベルと収量構成要素					
	[水稲]				[----]	[—計画
	[陸稲]				[----]	[—計画
	[畑作／水田裏作]				[---]	[—計画
	(2)改良技術導入試験					
	1)湛水直播		[----------] 今後の課題として残す			
	2)移植水稲				[----------]	[---------cont.
	3)陸稲				[----------]	[---------cont.
	4)畑作／水田裏作				[------] [----------]	[---------cont.
	5)ニステート作物	//----------cont.				
	(3)個別技術の合成と体系化			[----------]		[-cont.
	(4)地域別好適作付様式の策定	← (クロッピング・パターンを中心とする)				[---予定--cont.
	(5)普及員用技術書の取り纏め	==========]			[----------cont.	
	1) リーフレット				[----------cont.	
	2) パンフレット				[----------cont.	
	3) 普及員技術書					[---cont.

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次）	平成4年度（2年次）	平成5年度（3年次）	平成6年度（4年次）	平成7年度（5年次）
		A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A M J J A S O N D J F M A				
		乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期	乾期 雨期	乾期
	季節→	[-------][/////////////][-------][/////////////][-------][/////////////][-------][/////////////][-------][//////////				
	専門家在任状況→	[==========高島専門家==========][========== 難波専門家 ==========▼				
						R/D#
2. 栽培及び営農技術の展示	2. 栽培及び営農技術の展示					
	(1) 1991-94年の展示／実証試験					
	1) ラノメト村	[--------]	[-------][---------]	[-------][--------]	於IARDP, DEMO FARM	
	2) オネウイラ村					
	3) サブラコア村					
	4) バランガ村					
	5) キアニア村					
	6) ラブル村					
	7) ラロバオ村					
	8) ラニヤ村					
	(2) 1994/95年度・乾期作					
	1) ラノメト村				[---------]	
	2) オネウイラ村					
	3) サブラコア村				[---------]	
	4) バランガ村				[---------]	
	5) キアニア村				[---------]	
	6) ラブル村					
	7) ラロバオ村					
	8) ラニヤ村				[---------]	
	(3) 1994/95年度・雨期作					
	1) ラノメト村					[----------]
	2) オネウイラ村					[----------]
	3) サブラコア村					[----------]
	4) バランガ村					[----------]
	5) キアニア村					[----------]
	6) ラブル村					[----------]
	7) ラロバオ村					[----------]
	8) ラニヤ村					[----------]
	(4) 1995/96年度・乾期作					
	1) ラノメト村					[--cont.
	2) オネウイラ村					[--cont.
	3) サブラコア村					[--cont.
	4) バランガ村					[--cont.
	5) キアニア村					[--cont.
	6) ラブル村					[--cont.
	7) ラロバオ村					[--cont.
	8) ラニヤ村					[--cont.

協力活動目標達成表

（農民組織強化部門）

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
ＩＶ．農民組織強化 １．農民組織調査	IV.　農民組織強化 1.　農民組織調査	ＩＶ．　農民組織強化 １．　農民組織調査	IV.　農民組織強化 1.　農民組織調査
(1) 対象村	(1) 対象村の農民グループの実態調査 プロジェクト協力対象8ケ村の既存の農民グループの実態の把握。また、対象村及び関係地域の農業農村地域社会の基礎調査。調査手法及びデータ収集、分析をC/Pに指導、助言。	(1)　対象村の農民グループの実態調査 1992年、93年、94年にかけて、プロジェクト対象８ケ村の『農民グループの実態、民族構成等』について調査した。調査は、カウンターパト(C/P)と共同で計画、実施した。この間に調査方法等についてC/Pに技術移転した。 およそ8,000人の農民の所属農民グループ、土地所有形態面積、作目、家族構成、所属部族等判明した。これらのデータは、農民組織及びその強化のために役立った。 併せて、農家の実態を把握するため、水稲、陸稲などの作物収量調査、農産物・生活用品市場調査、また、農村婦人の生活実態調査等の『農業、農村地域社会の基礎調査』を行なった。これらの調査資料は調査報告にまとめられ、農民、農業を理解し、農民組織強化を適切に進める上で役立った。	(1)　対象村の農民グループの実態調査 基本的な実態調査は完了し、C/Pへの技術移転はほぼできた。（達成率：80%） 村全体の活性化を計るため、婦人グループや若者グループの実態を調査する。（短期専門家が対応）また、将来調査結果をC/P等が充分利用出来るよう日本語で書かれた報告書を翻訳する。 自主的な農民組織として、村において重要な役割を担う村落協同組合(KUD)組織するための農家の実態調査が必要である。また、ミニ・プロジェクト等の村の活性化のための農業活動の実態の調査の調査を行なう。C/Pがほぼ対応出来る。 （達成率：70%）
(2) 類似プロジェクト等	(2) 類似プロジェクト等の農業、農民組織調査 農民組織の強化を助けるため、国内各地域の伝統的農業方式並びに移住農民の出身地の農業、農民組織を調査する。調査方法、データ収集、分析等をC/Pに指導・助言する。	(2)　類似プロジェクト等の農業、農民組織調査 現在までに(1995年8月末)、10ケ所の州内外の類似プロジェクト等の農業、農民組織の調査をおこなった。州外の主な調査地は、西スマトラ、中央・東ジャワ、南・西カリマンタン、南・中央スラウェシ、東インドネシア等である。 調査結果は、『調査報告書』にまとめられているが、次のような点が農民組織強化を進める上で、配慮しなければならないことが理解された。	(2) 類似プロジェクト等の農業、農民組織調査 基本的な実態調査は完了し、C/Pへの技術移転はほぼ出来た。（達成率：80%） 村全体を活性化するため婦人グループや若者グループの実態を把握するため、補足的調査をする。（短期専門家が対応）　また、将来調査結果をC/P等が十分利用出来るように、日本語で書かれた報告書を翻訳する。

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
	また、調査の結果を農民組織強化に役立てる方法をとC/Pと発展させた。	(a) 伝統的農業： プロジェクトの開発対象村の先住民トラキー族の農業ー焼き畑（陸稲、トウモロコシ、ひえ等）及びサゴヤシーについて、これらの調査を通して理解が得られた。また、移住農民達の農業形態の背景を知ることができた。(b) 先進地域の農業：ジャワ人の農業ー水田の水管理、複合農業（ミナパディ・システム）など。バリの農業ー水管理組織（スバック）、(c) ブギス人の農業ー天水稲作、畑作、エテート作物（香辛料、カシューナッツなど）商業的農業の特徴、特質がある。 調査はC/Pと一緒に実施した。調査手法、データ収集・分析について指導、助言した。	プロジェクト協力期間終了後に活動が継続的に続くように、各村に自立的な組織がいる。行政のバックアップはもとより、現在の各種組織が村落協同組合(KUD)のような組織に発展することが望ましい。 そのための補足的調査が必要である。
2．事業参加に係わる組織育成・強化	2．事業参加に係わる組織育成・強化	2．事業参加に係わる組織育成・強化	2．事業参加に係わる組織育成・強化
(1) 組織作り	(1) 組織作り 農地造成、土地基盤施設等の農業・農村基盤整備に伴い次の様な農民組織の組織化、強化がなされる。 (a) 農民グループ（キィファーマー）及び農民グループユニオン（FGU） (b) 水管理組合(P3A) (c) 精米所RMU)、農業機械利用組織（FMRS） (d) 村落協同組合(KUD) (e) その他の組織	(1) 組織作り 現在までに、『農民グループ（キィファーマー）』はサブラコア村、オネウェラ村以外の６ケ村に於いて、組織されている。残る２ケ村については、インフラ整備と並行して組織化の予定。各村での農民グループの連合体である農民グループ・ユニオン(FGU)も上記６ケ村に組織されている。この組織主体となり、精米所(RMU)、農業機械利用組織(FMRS)等の運営がなされている。農民グループの参加による水路整備等のプロジェクト直営工事から得た基金（『ストックファンド』）がそれぞれの農民グループが設定している。 農民グループ・ユニオンは地域の作付け計画をたてている。『水管理組合』(P3A)ラノメト、バランガ、キアエア、ラブルの各村に組織された。ラロバオ村は準備中で、水田造成に伴って近日中に組織される。残る２ケ村はインフラ整備に伴	(1) 組織作り インフラ整備に伴うサブラコア村、オネウェラ村の『農民グループユニオン』、『水管理組合』、『ストックファンド・システム』の導入は、R／D終了まで完了することは時間的に無理。しかし、既にC/Pが 今までの経験から、これらの村の組織化は可能と思われる。（達成率：70%） 『村落協同組合（KUD）』はプロジェクトだけで組織化は難しいが、R/D終了までにラブル村及びバランガ村のKUDの組織化を完了させたい。更に、FGUを通してKUDの将来の芽を育てる努力をしている。KUDは村の農業生産活動、流通、加工等の中心となるべき組織と考えられるので、更に組織化の努力が必要。（達成率：40%）

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
		い組織される。水管理組合は組織されると、公共事業省に登ればならない。　「村落協同組合」(KUD)はラノメト村とラブル村のKUDはまだ協同組合省に登録されていない。C/Pは組織作り及び強化の方法については、十分理解している。	遅延の理由の一つとして1994年8月以降、C/Pの転出(1995年5月)や2名のC/Pの日本長期研修、また専門家の交替は村らでの組織活動が充分出来なかった面は否定できない。また、インフラ整備の後を追う形で組織を進めて来たので、組織が出来ていない村がある。 当部門の実績、成果として「農民組織マニュアル」をまとめ組織手順、強化法、達成度評価法等のマニュアルを作成する。(達成度：40%)
(2) カウンセリング	(2) カウンセリング 一旦組織された事業が円滑に運営され、順調に発展するため、定期的な巡回指導やモニタリング・システムにより問題点を早期に見いだし、解決する。	(2) カウンセリング 既に組織化された諸活動が、効率的かつ円滑に運営されるために、数年間位のフオローアップが必要である。そのためのシステム作りを、今までの経験にもとづき進めている。「精米所」は、FGU 又はKUD によりおおむね順調に運営されている。利用者カードの導入等により、運営の明瞭化につとめている。　しかし、適正な燃料代、管理経費、償却積立金等については、今までの実績をふまえ再検討する必要がある。「農業機械利用組織(FMRS)」では、ラノメト村で積立金から耕耘機一台を新規購入した。しかし、まだ新しい村では、機械の修理代がかさみ、利用規則の改訂を検討している。また普及員(PPL)による組織の運営、帳記の記帳など更に指導が必要である。「ストックフアンド・システム」については、水管理組合、農民グループ・ユニオン等の活動と並行して、有効に利用するよう指導している。	(2) カウンセリング 既に組織化された各種組織が、自律的にまた、持続的に維持され、発展することが望ましい。そのために、今までに蓄積された経験やKnow-Howにより組織が運営されなければならない。 そのような技術が定着するまで定期的、継続的な指導・助言が必要である。また、組織の成熟度を評価する「農民組織自己評価法」による評価を試みている。この方法がプロジェクトに適用出来るか検討している。C/Pが既にイニシャチブをとって指導しているが、今までの経験がそのまま、他の村に適応出来ない場合がある。(達成率：60%)
3．組織活動支援事業	3．組織活動支援事業	3．組織活動支援事業	3．組織活動支援事業
(1) ミニプロジェクト	(1) ミニ・プロジェクト	(1) ミニプロジェクト 村の農民組織の芽を育て、活性化させ、地域のニードに添った形で、婦人グループ、若者ぐるーぷが自主的に計画した小規模事業（ミニプロジェクト）を種子・材料等を支援、技術指導を行い、成果をあげている。多くのグループが参加して	(1) ミニ・プロジェクト ミニ・プロの簡単な技術の確立を計りたい。

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
	婦人、若者グループが自ら計画し、実行できる能力を高め、併せて家族の栄養改善や現金収入の途を作り、地域の活性化をもたらす。	成果をあげている。今までに、オネウェラ村以外で実施して来た。主なものは、(a) 果樹の優良苗木の育苗、(b) ロングビーン、なす、きゅうり等の家庭菜園、(c) カシューナッツの加工、(d) 養鶏、などである。 ミニプロジェクトは、グループが共同で計画・実行する能力を高め、またそれぞれの家庭の栄養改善、現金収入等の効果が認められた。ラノメト村婦人グループでは、既に野菜種子の採種、ローカルバサールでの野菜販売などへ発展しているまた、養鶏の経験から本格的な養鶏事業へと発展したケースもある。 ミニプロジェクトのアイデアがプロジェクト協力地域以外の州内の地域にも、農業省の他のプロジェクトを通して波及している。 「野菜の種子生産と保存」は、プロジェクトで作った種子保存庫の利用との関連で計画できることを期待している。 ミニプロは、実際面で、更に経験を繰り返し、C/PやPPLによるきめ細かい指導により、技術を定着させる必要がある。	ミニ・プロの“しおり”のようなものを、婦人や若者グループのために作成する。また、次の計画を重点的に進める。 (a) 養鶏（アリサン方式）定着。 (b) カシューナッツの加工（皮むき）共同事業。 (c) 婦人グループ、若者グループの先進地への研修旅行。（達成率：50%）

インドネシア南東スラウェシ州農業農村総合開発計画・協力活動実績一覧

（農民組織強化）

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次） M A M J J A S O N D J F	平成4年度（2年次） M A M J J A S O N D J F	平成5年度（3年次） M A M J J A S O N D J F	平成6年度（4年次） M A M J J A S O N D J F	平成7年度（5年次） M A M J J A S O N D J F
	・専門家在任状況 →	{ ……	……	…… 西村専門家 ……	…… } { ……	…… 菊地専門家 …… }
	・短期専門家 →					{ …… }
	・カウンターパート配置状況→					
	Mr. Mappinangku	{ ……	……	……	……	…… }
	Mr. Bien Bangapadang		{ ……	……	……	…… }
	Mr. Mansur Azia	{ ……	……	…… }		
	Mr. AndiAriaPangerang				{ ……	…… }
	Mr. Yanas Suruyana					{ …… }
I. 農民組織調査	I. 農民組織調査					
I. 対象村の農民組織の実態調査	1. 対象村の農民組織の実態調査 データ収集及び分析					
	1) ラノメトロ村	———	———			
	2) パランガ村		———			
	3) キアエア村		———			
	4) ラエア村				———	
	5) ラロパオ村			———	———	
	6) ラブル村			———	———	
	7) オブラコア村				———	……
	8) オノウエラ村				———	……
	2. 対象村等の農村基礎調査					
	1) 水稲収量調査					
	2) 畑作収量調査					

（備考：——— 実施　…… 計画）

インドネシア南東スラウェシ州農業農村総合開発計画・協力活動実績一覧

（農民組織強化部門）

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次） M A M J J A S O N D J F	平成4年度（2年次） M A M J J A S O N D J F	平成5年度（3年次） M A M J J A S O N D J F	平成6年度（4年次） M A M J J A S O N D J F	平成7年度（5年次） M A M J J A S O N D J F
II. 事業参加に係わる組織育成強化	II. 事業参加に係わる組織育成強化					
1. 組織作り	1. 組織作り					
	1) 農民グループ（キイ・ファーマー）					
	・農民グループユニオン（FGU）		———			
	・水利用組合（P3A）		———			
	・村落開発組合（KUD）			———	———	
	・婦人部（RMU）			———	———	———
	・農業機械利用組織（FMRS）					
	・ラノメト村		———	———		
	・バランガ村				———	———
	・キアエア村				———	———
	・ラエア村					———
	・ラロバオ村					
	・ラブル村					
	・サブラゴア村					
	・オネウエラ村					
2. カウンセリング	2. カウンセリング					
	1) ストックアドバンド・システム					
	・ラノメト村		———			
	・バランガ村			———		

（備考：——— 実施　…… 計画）

インドネシア南東スラウェシ州農業農村総合開発計画・協力活動実績一覧

（農民組織強化部門）

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次） M A M J J A S O N D J F	平成4年度（2年次） M A M J J A S O N D J F	平成5年度（3年次） M A M J J A S O N D J F	平成6年度（4年次） M A M J J A S O N D J F	平成7年度（5年次） M A M J J A S O N D J F
2. 類似プロジェクト等	1. 類似プロジェクト等の農業、農民組織調査					
	1) 西スマトラの農業、農民組織調査		—			
	2) 南、中央スラウェシの農業、農民組織調査		—			
	3) 中央、東ジャワの農業、農民組織調査			—		
	4) 南、西カリマンタンの農業、農民組織調査			—		
	5) 南東スラウェシ（コラカ）の農業、農民組織調査			—		
	6) 東部インドネシア（ハルマヘラ、ソロン、メナド）の農業、農民調査				—	
	7) 南東スラウェシ（ムナ、ブトン）の農業、農民組織調査			—		
	8) 南東スラウェシ（ブトン）の農業、農民組織調査				—	
	9) 西ジャワの農業、農民組織調査				—	
	10) 東スサ・テンガラ、西スサ・テンガラ、バリの農業、農民組織調査				—	
	11) 南東スラウェシの農業、農民組織調査					·····
	12) 南スラウェシの農業、農民組織調査					····

（備考：——— 実施　····· 計画）

インドネシア南東スラウェシ州農業農村総合開発計画・協力活動一覧

（農民組織強化部門）

（4/4）

TSIの項目	活動内容	平成3年度（1年次） M A M J J A S O N D J F	平成4年度（2年次） M A M J J A S O N D J F	平成5年度（3年次） M A M J J A S O N D J F	平成6年度（4年次） M A M J J A S O N D J F	平成7年度（5年次） M A M J J A S O N D J F
	・キアエアH					
	・ラエアH					
	・ラロバオH					
	・ラブルH					
	・サブラコアH					
	・オネウエラH					
III. 組織活動支援事業 1. ミニプロジェクト	III. 組織活動支援事業 1. ミニプロジェクト 小規模な農業関連事業－家庭菜園、野菜種子生産、菜種資本、カシュナッツ加工農業等を婦人グループ及び若者グループが実施するのを支援する					
	1) 婦人グループ					
	・ラノメトH					
	・バランガH					
	・キアエアH					
	・ラエアH					
	・ラロバオH					
	・ラブルH					
	・サブラコアH					
	・オネウェラH					
	2) 若者グループ					

（備考：——— 実施　…… 計画）

協力活動目標達成表

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
V、政府等関係職員、中核農民及び農民グループ研修	・プロジェクト内の技術移転をインドネシア側のイニシャティブによって農民レベルまで円滑に実施させることをねらいとして、その中堅的にある農業普及員、郡レベル政府関係者、中核農民及び農民組織に対して研修を実施し、技術移転を強化を図る。 本研修は15研修コースを設定し、本プロジェクト対象5郡8村を対象とし、日本側協力5ケ年間に全村の関係者を対象に実施する。	・平成3年度より下記内容で実施された。 －平成3年度：4コース（機械操作維持管理、水稲栽培、畑作物栽培、農村婦人組織活性化研修） 初年度の平成3年度は研修実施に必要な諸条件（教材、資機材、基盤整備の実施等）が十分に整っていないため、実施可能な分野、研修コースに限り年度内に実施した。 －平成4年度：合15コース －平成5年度：合15コース －平成6年度：13コース（多角的果樹的営農研修（畜産）及び州外先進地研修を除く） 「イ」側予算で実施が予定されていた上記2研修コースは予算配分の問題で予算が確保できなかったため実施できなかった。 ・別紙「年度別及び各対象村別参加人数実績」参照。	
1.農業・農村開発計画 (1)農業・農村開発計画	(1)開発計画に従事している政府関係者を対象に、開発手法及び計画の実施方法等についての技術移転を実施する。	(1)平成4年度、5年度はセミナー形式、平成6年度はワークショップ形式で州、県政府職員対象に開催した。 ①平成4年度： ・セミナー内容：第2次長期国家計画（農業セクター）における持続性ある総合アグリビジネスの改善政策の他農村開発を促進するための中央、州、県政府機関の農業・農村開発政策等の発表及び質疑応答を通し参加者の理解を得た。 ・講　師：農業省官房計画局長、農業省ボゴール農業研究所研究員、州BAPPEDA所長、ケンダリ県知事、農業省地域事務所長、国立ハルオレオ大学農学部教授、JICAチームリーダー ・参加者数：地方、州及び県政府関係者45名 ②平成5年度： ・セミナー内容：州内関係機関実務担当者から本プロジェクトと類似した農村地域開発計画策定の手法・手順・実施事例等についての紹介及び質疑応答を通し参加者の理解を得た。 ・講　師：CARE(NGO)ケンダリ事務所所長、CIDA専門家（州BAPPEDA派遣）、内務省村落開発州事務所副所長、JICAチームリーダー ・参加者数：地方、州及び県政府関係者80名 ③平成6年度： ・ワークショップ内容：農業・農村開発計画を策定・実施・評価するに当たって一貫性のある運営管理手法を「イ」側関係機関の開発担当者及びC/Pに習得させることを目的としてPCM手法を用い、本プロジェクトで開発実施予定のオヤウイラ村を対象とした農村地域開発計画をテーマとするワークショップを実施し、成果品としてプロジェクトデザインマトリックス(PDM)及び実施計画表が作成された。 ・講　師（モデレーター）：JICA短期専門家 ・参加者数：オヤウイラ村郡長・村長・普及員及び地方、州政府関係者計19名	(1)平成7年度に州、県政府関係職員を対象に、農村開発計画策定手法について、本プロジェクトで実施した経験及び実績を紹介し今後「イ」側で同種の農村開発をしていく上での適切な手法を検討するためのセミナーを開催する。 達成度：100%
(2)農地造成	(2)プロジェクト対象8ケ村の農業普及員等の政府職員及び中核農民を対象にプロジェクトの終了後に各村が自ら行う開発可能地の農地造成（水田、畑等）時の応用技術の一助とするため、農地造成手法の技術移転を実施する。	(2)平成4、5、6年度3ケ年で7ケ村の普及員等政府職員及び中核農民（合同）を対象に実施した。 ・内　容：農地造成工手法、農地保全概念、機械造成施工実習、施工管理実習（レベリング のよる均平測量等）、平板測量による水田出来高測量実習、農業機械基本操作及び造成地の耕起・砕土実習等 ・参加者数（政府職員、中核農民）：－平成4年度：ラノメト、ルランガ、キアエア村：計23名、 －平成5年度：ラプタ、ラロバオ、ラエア村：計20名 －平成6年度：サブラコア、オヤウイラ村：計26名、以上で全8ケ村実施済	(2)プロジェクト対象全8ケ村の政府職員及び中核農民へ実施済であるが、平成7年度は補完的技術移転が必要と思われる科目について全村政府職員等対象に実施する。 達成度：100%

協力活動目標達成表

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
(3)農業機械操作・整備	(3)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村の農業普及員等の政府職員及び中核農民を対象に本ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄで供与した農業機械の操作方法、日常保守管理技術の技術移転を実施する。	(3)平成3、4、5年度は4ヶ村の普及員等政府職員及び中核農民(合同)を対象に下記内容にて実施した。 ・内　容;農業機械化概念、各種営農機械(動力噴霧機、二輪ﾄﾗｸﾀｰ、四輪ﾄﾗｸﾀｰ)の基本知識、操作維持管理、ｶﾞｿﾘﾝ及びﾃﾞｨｰｾﾞﾙｴﾝｼﾞﾝ基本知識及び維持管理技術、ﾌﾞﾙﾄﾞｰｻﾞｰ基本知識及び維持管理技術 ・参加者数(政府職員及び中核農民);－平成3年度;ﾗﾉﾒﾄ村;計10名 －平成4年度;ﾊﾟﾗﾝｶﾞ村;計10名 －平成5年度;ｷｱｴｱ、ﾗｳﾊﾞｵ村;計30名、以上4ヶ村実施済。 また、営農機材の各村への供与・利用に伴い機材の故障が続出し、上記研修を通し概念的な知識のみ修得した普及員及び中核農民ではその対応が十分にできないことから、早急に各村で機材管理維持体制を確立する必要が生じた。そこで各村より機械整備に興味のある農民を選出しもらい整備士として基本的な機械整備に必要な技術の移転を図ることとし、平成5年度より当整備員養成研修を開始した。また、各村で配置されている2名のｵﾍﾟﾚｰﾀｰに対しても整備員と同内容の研修を実施した。 ・内　容;機械構造・機能概要、機械分解・組立(特にﾙﾝﾄﾞﾄﾗｸﾀｰ)、日常保守点検、修理用機器・工具類の取扱い、ｶﾞｽ、電気溶接技術 ・参加者数(農民);－平成5年度;計6名(機材未供与の2村を除く6村より1名ずつ) －平成6年度;第1回、計24名(各8村より2名のｵﾍﾟﾚｰﾀｰ及び1名の整備士) 第2回、計24名(同上)、以上全8ヶ村対象に実施済。	(3)平成7年度も継続し、各村に配置されている整備士に対し、農業機械整備に係る応用技術の研修を実施する。 達成度:80%
2.営農計画及び栽培 (1)水稲	(1)農業普及員等政府職員、中核農民、農民ｸﾞﾙｰﾌﾟを対象に各々の知識・経験のﾚﾍﾞﾙに応じた水稲栽培技術の基礎・応用技術向上を目的とした技術移転を実施する。	(1)政府職員研修はﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村(5郡)の普及員、普及所長及び周辺の郡からの普及員を対象に、中核農民研修は対象村を移動しながら平成3年度より毎年実施。農民ｸﾞﾙｰﾌﾟ研修は必要に応じ対象村を移動しながら平成4年度より実施。 ・内　容;州農業開発政策、農業普及の実務(政府職員研修のみ)、水稲生育ｽﾃｰｼﾞ毎の栽培管理知識及び技術、栽培暦とその技術等 ・参加者数(政府職員研修);－平成3年度;ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象5郡等;計19名 －平成4年度;同上;計20名 －平成5年度;同上;計20名 －平成6年度;同上;計20名、以上全8ヶ村対象に実施済。 (中核農民研修);－平成3年度;ﾗﾉﾒﾄ村;計20名 －平成4年度;ﾊﾟﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴｱ村;計20名 －平成5年度;ﾗｳﾊﾞｵ、ﾗﾌﾟﾙ村;計30名 －平成6年度;ﾗｴｱ、ｻﾌﾞﾗｺｱ、ｵｷｳｲﾗ村;計90名、以上全8ヶ村対象に実施済。 (農民ｸﾞﾙｰﾌﾟ研修);－平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ、ﾊﾟﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴｱ村;計120名 －平成5年度;ﾗｳﾊﾞｵ、ﾗﾌﾟﾙ村;計99名 －平成6年度;全8村;計78名、以上全8ヶ村対象に実施済。	(1)平成7年度にﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村(5郡)の普及員、普及所長及び周辺の郡からの普及員を対象に実施し、中核農民研修は8ヶ村から選抜した3村対象に実施する。 達成度:80%
(2)畑作物	(2)農業普及員等政府職員、中核農民、農民ｸﾞﾙｰﾌﾟを対象に各々の知識・経験のﾚﾍﾞﾙに応じた畑作物栽培技術の基礎・応用技術向上を目的とした技術移転を実施する。	(2)政府職員研修はﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村(5郡)の普及員、普及所長及び周辺の郡からの普及員を対象に、中核農民研修は対象村を移動しながら平成3年度より毎年実施。農民ｸﾞﾙｰﾌﾟ研修は必要に応じ対象村を移動しながら平成4年度より実施。 ・内　容;州農業開発政策(政府職員研修)、畑作物(ﾄｳﾓﾛｺｼ、落花生、大豆等)生育ｽﾃｰｼﾞ毎の栽培管理知識及び技術等	(2)平成7年度にﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村(5郡)の普及員、普及所長及び周辺の郡からの普及員を対象に実施する。 達成度:100%

協力活動目標達成表

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
		・参加者数(政府職員研修);ー平成3年度;ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象5郡等;計20名 ー平成4年度;同上;計20名 ー平成5年度;同上;計20名、以上全8ヶ村を対象に実施済。 ー平成6年度;同上;計20名 (中核農民研修);ー平成3年度;ﾗﾉﾒ村;計20名 ー平成4年度;ﾊﾟﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴﾌ村;計20名 ー平成5年度;ﾗﾛﾊﾞｵ、ﾗﾌﾞﾙ村;計20名 ー平成6年度;ﾗｴﾌ、ｻﾌﾞﾗｺﾌ、ｵｷｳｲﾗ村;計90名、以上全8ヶ村を対象に実施済。 (農民ｸﾞﾙｰﾌﾟ研修);ー平成4年度;ﾗﾉﾒ、ﾊﾟﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴﾌ村;計120名 ー平成5年度;ﾗﾛﾊﾞｵ、ﾗﾌﾞﾙ村;計101名、以上5ヶ村を対象に実施済。	
(3)ｴｽﾃｰﾄ作物	(3)農業普及員等政府職員、中核農民、農民ｸﾞﾙｰﾌﾟに対し各々の知識・経験のﾚﾍﾞﾙに応じたｴｽﾃｰﾄ作物(ｶｼｭｰﾅｯﾂ、加才等)の栽培技術向上を目的とした技術移転を実施する。	(3)政府職員研修はﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村(5郡)の普及員、普及所長及び周辺の郡からの普及員を対象に、中核農民研修は対象村を移動しながら平成4年度より実施。農民ｸﾞﾙｰﾌﾟ研修は必要に応じ対象村を移動しながら平成4年度より実施。 ・内　容;州ｴｽﾃｰﾄ作物開発政策、農業普及の実務(政府職員研修のみ)、ｷｬｼｭｰﾅｯﾂ、加才、緑の生育ｽﾃｰｼﾞ毎の管理知識及び技術、収穫後処理、農産加工処理等 ・参加者数(政府職員研修);ー平成4年度;ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象5郡等;計20名 ー平成5年度;同上;計20名 ー平成6年度;同上;計10名、以上全8ヶ村対象に実施済。 (中核農民研修);ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ、ﾊﾟﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴﾌ村;計20名 ー平成5年度;ﾗﾛﾊﾞｵ、ﾗﾌﾞﾙ村;計20名 ー平成5年度;ﾗｴﾌ、ｻﾌﾞﾗｺﾌ、ｵｷｳｲﾗ村;計90名、以上8ヶ村対象に実施済。 (農民ｸﾞﾙｰﾌﾟ研修);ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ、ﾊﾟﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴﾌ村;計55名 ー平成5年度;ﾗﾛﾊﾞｵ、ﾗﾌﾞﾙ村;計50名、以上5ヶ村対象に実施済。	(3)平成7年度にﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村(5郡)の普及員、普及所長及び周辺の郡からの普及員を対象に実施する。 達成度:100%
(4)多角的集約営農	(4)畜産普及員等政府職員及び中核農民に対し各々の知識・経験のﾚﾍﾞﾙに応じた肉牛飼育技術の向上を目的とした技術移転を実施する。	(4)政府職員研修は畜産が盛んなﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象郡及び近隣郡の畜産普及員を対象に、中核農民はﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象村から肉牛肥育が盛んな村を対象に平成4年度から実施。 ・内　容;州畜産開発政策、畜産普及方法(政府職員のみ)、肥育飼料方法、肥育評価方法、畜産病理、飼育者ｸﾞﾙｰﾌﾟの組織化、多角的営農等 ・参加者数(政府職員研修);ー平成4年度;ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象5郡等;計20名 ー平成5年度;同上;計20名、以上対象5郡に対象に実施済。 (中核農民研修);ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ村;計33名 ー平成5年度;第1回;ﾊﾟﾗﾝｶﾞ村;計25名 第2回;ﾗﾉﾒﾄ村;計25名、以上2ヶ村を対象に実施済。	(4)平成7年度にﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象5郡及び近隣郡の畜産普及員を対象に実施し、中核農民研修は肉牛肥育が盛んな対象村3ヶ村に対し実施する。 達成度:100%
(5)水管理	(5)関係政府職員、中核農民及び水利組合員を対象に、本ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄで施工した灌漑施設の建設に伴う水利組合の育成・強化を目的とした技術移転を実施する。	(5)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象村の内、灌漑施設を建設する7ヶ村の村長、農業普及員等政府職員、関係中核農民及び水利組合員を対象に平成4年度より実施し、本研修実施に伴い水利組合が設立された。 ・内　容;水利組合の活動・運営管理・役割、用水計画等 ・参加者数;ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ村;計20名 ー平成5年度;ﾊﾟﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴﾌ村;計37名 ー平成6年度;ﾗﾛﾊﾞｵ、ﾗﾌﾞﾙ村;計30名、以上5ヶ村対象に実施済。	(5)平成7年度に灌漑施設施工が完了していない2ヶ村の政府等関係者及び関係中核農民に対し研修を実施し、水利組合の設立の一助とする。 達成度:100%

協力活動目標達成表

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
3.農民組織 (1)組織強化	(1)農民ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰに対し、農民ｸﾞﾙｰﾌﾟをまとめていくために必要な組織強化方法、村の農業開発、本ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄの役割等等について必要な研修をを実施する。	(1)農民ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰ対象にﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村を対象に、平成4年度より毎年2ヶ村を対象に実施。 ・内　　容;農民ｸﾞﾙｰﾌﾟにおける営農計画、農業総合開発、農民組織と村落協同組合、ｽﾄｯｸﾌｧﾝﾄﾞ制度とその利用、先進地農家視察・意見交換等 ・参加者数;ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ、ﾊﾞﾗﾝｶﾞ村;計65名 ー平成5年度;ｷｱｴﾌ、ﾗﾛﾊﾞﾀ村;計53名 ー平成6年度;ﾗﾌﾟﾙ、ﾗｴﾌ村;計61名、以上6ヶ村を対象に実施済。	(1)平成7年度に当研修を実施していない2ヶ村の農民ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰを対象に実施し、全8ヶ村での研修を完了させる。 達成度:80%
(2)農村婦人組織強化	(2)農村婦人ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰ対象に、農村婦人活動を強化し、かつﾒﾝﾊﾞｰを指導していくことに必要な研修を実施し、また農村婦人ｸﾞﾙｰﾌﾟ対象に農村開発における農村婦人の役割、組織の必要性、活動の強化について認識してもらうため必要な研修を実施する。	(2)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村を対象に、農村婦人ｸﾞﾙｰﾌﾟﾘｰﾀﾞｰ対象研修を平成4年度より、ｸﾞﾙｰﾌﾟ対象研修を平成3年度より毎年2ヶ村を対象に実施。 1)ﾘｰﾀﾞｰ研修: ・内　　容;農村開発における婦人の役割、ｸﾞﾙｰﾌﾟにおける協同作業活動、ｽﾄｯｸﾌｧﾝﾄﾞ制度とその利用、庭先菜園の利用管理、営農計画、養鶏、先進地農家視察・意見交換等 ・参加者数;ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ、ﾊﾞﾗﾝｶﾞ村;計45名 ー平成5年度;ｷｱｴﾌ、ﾗﾛﾊﾞﾀ村;計40名 ー平成6年度;ﾗﾌﾟﾙ、ﾗｴﾌ村;計44名、以上6ヶ村を対象に実施済。 2)ｸﾞﾙｰﾌﾟ研修: ・内　　容;食品の栄養的価値、ﾊﾞﾗﾝｽのとれた料理法、農村にある材料による新しい料理の紹介等 ・参加者数;ー平成3年度;ﾗﾉﾒﾄ村;14ｸﾞﾙｰﾌﾟ(計117名) ー平成4年度;ﾊﾞﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴﾌ村;18ｸﾞﾙｰﾌﾟ(計336名) ー平成5年度;ﾗﾛﾊﾞﾀ、ﾗﾌﾟﾙ村;18ｸﾞﾙｰﾌﾟ(計193名) ー平成6年度;ﾗｴﾌ、ｻﾌﾞﾗｺﾌ村;18ｸﾞﾙｰﾌﾟ(計169名)、以上7ヶ村を対象に実施済。	(2)平成7年度にﾘｰﾀﾞｰ研修を実施してない2ヶ村及びｸﾞﾙｰﾌﾟ研修を実施していない1ヶ村に対し実施し、全8ヶ村での研修を完了させる。 達成度:80%
(3)農村生活向上	(3)農村婦人対象に、村の生活向上活動に積極的に取り組む体制をつくる目的で、村の生活向上に必要な知識を向上させるために必要な研修を実施する。	(3)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村を対象に毎年2ヶ村を対象に実施し、平成4年度は農村婦人ｸﾞﾙｰﾌﾟ代表を対象に、平成5年度より農民夫婦を対象に実施。 ・内　　容;農村開発における婦人の役割、農村の環境(衛生)、村の農業、指導者の働き、先進地農家視察・意見交換 ・参加者数;ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ、ﾊﾞﾗﾝｶﾞ村;計78名 ー平成5年度;ｷｱｴﾌ、ﾗﾛﾊﾞﾀ村;計74名 ー平成6年度;ﾗﾌﾟﾙ、ﾗｴﾌ村;計75名、以上8ヶ村を対象に実施済。	(3)平成7年度に当研修を実施していない2ヶ村の農民夫婦を対象に実施し、全8ヶ村での研修を完了させる。 達成度:100%
4.その他プロジェクト支援強化 (1)農民若年層研修	(1)農村の後継者となる若者ｸﾞﾙｰﾌﾟを対象に、組織活動の啓蒙を目的に農業の基本的問題の把握、将来の方向、村の活性化に必要な研修を実施する。	(1)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村を対象に毎年2～3ヶ村を対象に平成4年度より実施し、別途、平成5年度より選抜した1ヶ村の農民若者を対象に農民若者技術研修として乾期作の主要作物(大豆、落花生等)の実践栽培研修を実施。 1)農民若者研修; ・内　　容;農民ｸﾞﾙｰﾌﾟの役割の重要性、ｸﾞﾙｰﾌﾟ協同作業、作物作付け計画と成果、ｽﾄｯｸﾌｧﾝﾄﾞ制度と資金の活用、先進地農家の視察・意見交換 ・参加者数;ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ、ﾊﾞﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴﾌ村;計63名 ー平成5年度;ﾗﾛﾊﾞｵ、ﾗﾌﾟﾙ村;計35名 ー平成6年度;ﾗｴﾌ、ｻﾌﾞﾗｺﾌ村;計40名、以上6ヶ村を対象に実施済。	(1)平成7年度に当研修を実施していない1ヶ村の農民若者を対象に実施し、全8ヶ村での研修を完了させ、農民若者技術研修は1ヶ村を対象に実施する。 達成度:100%

協力活動目標達成表

協力活動内容	目標／期待される成果	現在までの実績／成果	達成見込み・遅延の理由
		2)農民若者技術研修; ・内　容;畑作物一作の栽培ｽﾃｰｼﾞ毎の技術体系の実習を通して生態系と作物栽培の関係の学習、共同作業を通しての組織活動化 ・参加者数;ー平成5年度;ﾊﾟﾗﾝｶﾞ村;計18名 ー平成6年度;ﾗﾛﾊﾞｵ村;計20名、以上2ヶ村を対象に実施済。	
(2)農業技術未熟農家研修	(2)農業技術の未熟な農民を対象に農業の基本となる考え方及び技術についての研修を実施する。	(2)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村の農業技術の未熟な農民を対象に毎年2ヶ村を対象に平成4年度より実施。 ・内　容;営農と土地利用、農業の7基本知識、農民ｸﾞﾙｰﾌﾟの協同、ｽﾄｯｸﾌｧｰﾐﾝｸﾞ制度とその活用、ｸﾝﾀﾞﾘ市場視察等 ・参加者数;ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ、ﾊﾟﾗﾝｶﾞ;計79名 ー平成5年度;ｷｱｴｱ、ﾗﾛﾊﾞｵ村;計67名 ー平成6年度;ﾗﾌﾞﾙ、ﾗｴｱ村;計39名以上6ヶ村を対象に実施済。	(2)平成7年度に当研修を実施していない2ヶ村の農業技術の未熟な農民を対象に実施し、全8ヶ村での研修を完了させる。　達成度;100％
(3)農業祭	(3)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象村の農民及び村の関係者を一同に集め、本ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ活動内容・成果の紹介、農村・農民間での経験や情報の交換、農村・農民同士の有効的協力関係の強化を図る目的で実施する。	(3)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村の政府職員(郡長、村長、普及員等)及び州、県の政府関係者の参加を得て、平成4年度より開催場所を変えながら実施。平成4年度はﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ実施村対象村3ヶ村のみの関係者を集め実施し、平成 5年度よりは全村対象とした。 ・内　容;農業関連映写会、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象村活動紹介、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄﾊﾟﾈﾙ展示、各村の物産展示会、ﾊﾞｻﾞｰﾙ即売会、ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ施設視察、ｽﾎﾟｰﾂ大会等 ・参加者数;ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ、ﾊﾟﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴｱ村から250名(会場;ﾗﾉﾒﾄ郡) ー平成5年度;全8ヶ村から320名(会場;ﾊﾟﾗﾝｶﾞ郡) ー平成6年度;全8ヶ村から470名(会場;ﾃｨﾅﾝｷﾞ7郡)	(3)平成7年度に昨年度と同様にﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ8ヶ村の政府等関係者及び農民を一同に集め実施する。 達成度;100％
(4)州外先進地視察研修	(4)政府職員、中核農民を対象に先進地農業地域視察を実施し、先進地の農業経営、営農技術、流通販売方法、協同組合活動等について視察、現地の農民との交流を通じ参加者にｲﾝｾﾃｨﾌﾞを与えることを目的とした。	(4)ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ対象8ヶ村の内、毎年3ヶ村から政府職員(郡長、村長、普及員等)及び中核農民を対象に東ｼﾞｬﾜの農村地域を対象に視察研修を平成4年度より実施。 ・内　容;水田、野菜栽培地域、家畜(肉牛、山羊、養鶏)飼育農家、種子生産農家、協同組合、水利組合果樹苗木生産会社等の視察及び意見交換 ・参加者数;ー平成4年度;ﾗﾉﾒﾄ、ﾊﾟﾗﾝｶﾞ、ｷｱｴｱ村;計15名 ー平成5年度;ﾗﾛﾊﾞｵ、ﾗﾌﾞﾙ、ﾗｴｱ村;計15名	(4)平成7年度に当研修に参加してない2ヶ村の政府職員及び中核農民を対象に東ｼﾞｬﾜ農村地帯の視察研修を実施し、全8ヶ村を対象とした研修を完了させる。　達成度;100％
		[総　括] ①当研修による全体成果としては、概ね目標が達成された。 ②「イ」側予算による政府職員、中核農民対象の各種研修ｺｰｽ（特に営農栽培、畜産）が実施され、技術向上が図られている。	①一部分野（特に営農指導、機械運転保守管理、組織活動化分野）に関しては補完的な研修を実施し、その当初技術移転目標の達成を図ることとする。

インドネシア国南東スラウェシ州農業農村総合開発計画

当初計画：———
実　績：———　予　定：--------

実施計画内容 ＼ 経過年次 / 年　月	1年次 H.3.4	2年次 H.4.4	3年次 H.5.4	4年次 H.6.4	5年次 H.7.4	6年次 H.8.4	備　考
A．専門家派遣							専門家着任（6月）により技術指導
B．C／P配置							C／P配置（9月）により活動開始
C．機材供与							機器材等（12月）の供与開始
I．農業農村総合開発計画 1．土地利用計画及び営農計画 1）土地利用計画							8村の全体計画の作成
2）営農計画							8村の調査・計画の作成
2．農業農村基盤整備計画 1）測量調査							8村の測量調査
2）計画設計							8村の実施計画・地元協議の実施
II．農業農村基盤整備 1．土地基盤整備 1）農地造成		①	② ③	④ ⑤ ⑥	⑦ ⑧		農民参加に基づく供与機械による水田・農道等の建設
		①	② ③	④ ⑤	⑥ ⑦	⑧	
2）土地基盤整備	①	②	③	④ ⑤ ⑥	⑦ ⑧		かんがい施設・道路付帯構造物の建設及び農民参加による用水路等の建設
	①	②	③	④ ⑤	⑥ ⑦	⑧	
3）農業農村施設整備			① ②③	④ ⑤ ⑥	⑦ ⑧		研修施設・精米所等の施設の建設
			① ②	③ ④ ⑤	⑥ ⑦	⑧	

（備　考）　①：ラノメト村　②：バランガ村　③：キアエア村　④：ラロバオ村　⑤：ラブル村　⑥：ラエア村　⑦：サブラコア村　⑧：オネウイラ村

当初計画：————
実　　績：————　予　　定：--------

実施計画内容 ＼ 経過年次 / 年　月	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次	備　　考
	H.3.4	H.4.4	H.5.4	H.6.4	H.7.4	H.8.4	
Ⅲ．栽培及び営農技術の展示							
1．改良技術導入試験	①	② ② ①	③ ④ ② ③	⑤ ⑥ ④	⑦ ⑧ ⑤ ⑥	⑦ ⑧	インフラ整備の完了した8村の圃場を活用し、普及員への啓蒙・普及を実施
2．営農技術の展示・普及		① ①	① ② ① ②	① ② ① ②	① ② ① ②		ラノメト、バランガ村の2村内の展示圃場を利用して技術指導を実施
Ⅳ．農民組織強化							
1．農民組織調査							8村の農家調査及び類似プロジェクト（州外）の調査
2．組織育成・強化							水管理組合・農協組織等の組織作りとカウンセリング
3．組織活動支援事業							カシューナッツ加工等ミニ・プロジェクトの実施
Ⅴ．研修							
1．農業農村開発計画							農村開発計画・農地造成・機械操作及び整備等の実地研修
2．営農計画及び栽培							水稲栽培・畑作物・エステート作物及び多角的集約農業や水管理研修
3．農民組織							組織強化・農村婦人組織強化及び生活向上等の研修
4．その他・支援強化							農民若年層・農業技術未熟者農家及び農業祭や州外先進地研修

（備　考）　①：ラノメト村　②：バランガ村　③：キアエア村　④：ラロバオ村　⑤：ラブル村　⑥：ラエア村　⑦：サブラコア村　⑧：オネウイラ村